

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：網袋を利用したアサリ生産技術の開発			
〔要約〕 網袋を用いて冬季におけるアサリの保護育成技術を開発することにより、商品価値の高いアサリの生産が期待できる。			
キーワード アサリ、保護育成、網袋、肥満度			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター東京湾漁業研究所	
	協力機関	市川市行徳漁業協同組合	
実施期間	2014年度～2016年度		

〔目的及び背景〕

三番瀬のアサリ年間生産量は平成5～17年に2千t前後であったが、これ以降1千t未満で推移し、近年では100tにも満たないことがある。資源の減少要因は冬季の波浪による洗掘や鳥類の捕食等による冬季減耗と考えられている。冬季減耗を回避し、生産量が少ない初春に生産が可能となれば商品価値の高いアサリの生産と経営の多角化に繋がる。そこで、網袋を用いて冬季におけるアサリの保護育成技術の開発を行った。

〔成果内容〕

- 1 海底面に設置した網袋（砂利や軽石入り）でアサリを育成し、生残りや成長などを把握することで、最適な育成技術の開発に取り組んだ（写真1）。
- 2 2～3月のアサリ残存率は網袋の収容密度が周辺域の生息密度より高いにもかかわらず70%台であり、周辺域の30%台より高い（図1、2）。また、2～3月の肥満度も、網袋は23～24で周辺域の19～23より高い（図3）。
- 3 2～4月の残存率と肥満度は高いので（図4）、生産量の少ない初春に商品価値の高いアサリの生産が期待できる。
- 4 最適な育成技術は次のとおりである。
 - ・網袋の構成は、網質がポリエチレン、目合いが4mm角、網袋に入れる基質が軽石と砂利の半分ずつ。
 - ・育成場所は岸側の方が良い。（岸側は沖側より波浪に伴う流れが小さく、アサリの潜砂状態が安定するため）
 - ・育成開始時の種苗収容密度は1.5kg/袋が良い（1.0kg・2.0kg/袋と比較した結果）。
- 5 11～3月の育成では、開始から取上げまで、網の清掃などの管理を必要としない。

〔留意事項〕

本成果は三番瀬の市川市地先における試験に基づいている。他地区で実施する場合は、事前に設置場所の適地を選定した方が良い。

〔普及対象地域〕

東京湾北部地区（三番瀬）

[行政上の措置]

特になし

[普及状況]

市川市行徳漁業協同組合と共同で調査を実施した。

[成果の概要]



写真1 網袋

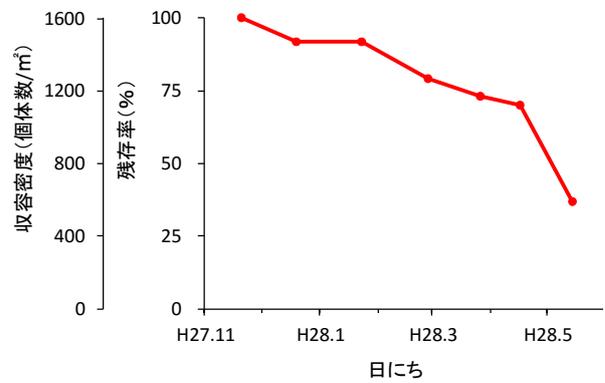


図1 網袋のアサリ收容密度と残存率

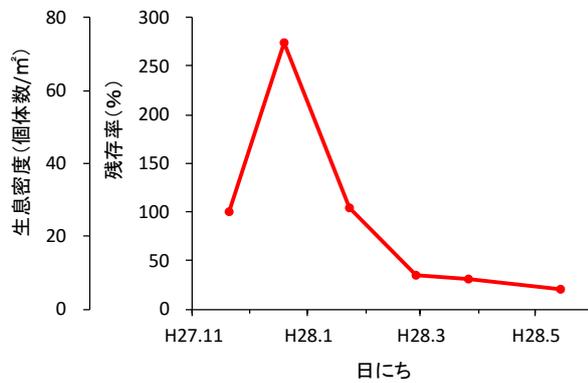


図2 網袋を設置した周辺のアサリ生息密度と残留率

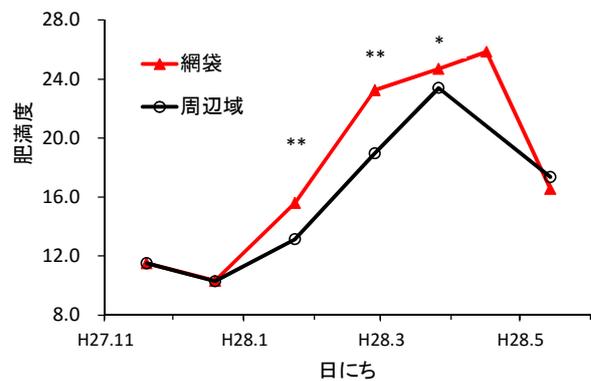


図3 肥満度

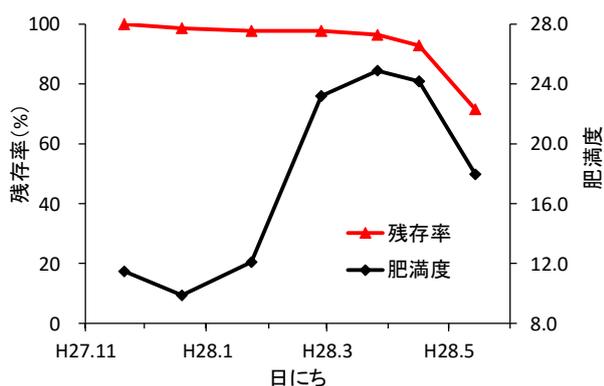


図4 最適な育成技術による残存率と肥満度



写真2 育成後のアサリの身入り

※図1～3と図4は同時期の調査であるが、試験場所が異なる。

[発表及び関連文献]

特になし

[その他]

特になし